

國學院大學学術情報リポジトリ

「宗教文化研究と学術情報発信の推進」（2024年度）
「宗教文化に関する研究と学術情報発信の体制構築」（2023年度）

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2025-04-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 星野, 靖二 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002001557

「宗教文化研究と学術情報発信の推進」(2024年度) 「宗教文化に関する研究と学術情報発信の体制構築」(2023年度)

プロジェクト責任者 星野 靖二

1. プロジェクトの概要

現在の日本文化研究所は、2007年に旧日本文化研究所を一つの有力な母体として研究開発推進機構が設立された際に、同機構下の一機関として改組・設置された。旧日本文化研究所が推進してきた事業の一部を継承することを念頭に置き、設置に際して「国際交流・学術情報発信部門」と「神道・国学研究部門」の二部門を立て、これまで両部門がそれぞれに事業を推進してきた。

例えば、2019年度から2021年度まで実施された「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」事業は主として「国際交流・学術情報発信部門」の担当プロジェクトとして推進され、「「國學院大學 国学研究プラットフォーム」の成果公開とデータベース再構築」事業は主として「神道・国学研究部門」の担当プロジェクトとして推進されてきた。

しかし、日本文化研究所として、両部門をより有機的に連携させ、従来の研究成果を継承しつつ拡充させ、かつそれを十分に活用し、より公益に資する形で公開することなどを目指して、2022年度より新たに両部門合同でプロジェクトを推進することとし、「宗教文化に関する研究と学術情報発信の体制構築」事業を立て、これを二カ年計画(2022～2023年度)で推進した。後掲の2では同事業の2023年度の成果について記す。

2024年度からは、本学中期五カ年計画の進捗を念頭に置き、同事業を発展的に継承することとして「宗教文化研究と学術情報発信の

推進」事業を立てた。これは当初、三カ年計画で進めることを想定していたが、その後研究開発推進機構全体で、2025年度より研究計画を原則単年度で企画するという方針になったため、後掲の3はそれを念頭に置いたものになっている。

2023年度の「宗教文化に関する研究と学術情報発信の体制構築」事業のメンバーは次の通りであった。

[専任教員] 星野靖二、吉永博彰、川嶋麗華
[兼任教員] 黒崎浩行、シッケタンツ、エリック、平藤喜久子、遠藤 潤、松本久史、飯倉義之

[ポスドク研究員] 高田 彩、藤井修平、大場あや、武井謙悟、木村悠之介

[研究補助員] 鳴海あかり、長見菜子、牧田小有玲

[客員教授] 井上順孝、櫻井義秀、ナカイ、ケイト、ヘイヴンズ、ノルマン、山中 弘、林 淳

[共同研究員] 天田顕徳、今井信治、小高絢子、ガイタニデイス、ヤニス、塚田穂高、野口生也、ビュテル、ジャン＝ミシェル、フレーレ、カール、牧野元紀、村上 晶、矢崎早枝子、一戸 渉、今井功一、荻原 稔、小田真裕、小平美香、齋藤公太、芹口真結子、原田雄斗、三ツ松誠、丹羽宣子、問芝志保、宮澤安紀、ラーション、エーニルス

2. 2023年度の成果

(1) デジタル・ミュージアムの運営

デジタル・ミュージアムの運営については、新システムへ移行後も、掲載コンテンツの調整・拡充を図っている。

<https://d-museum.kokugakuin.ac.jp>



(2) *Kokugakuin Japan Studies*の刊行

オンライン英文ジャーナル*Kokugakuin Japan Studies*の第5号を刊行した。テーマを「日本文化のイメージ」とし、次の3点の論文を英訳して掲載した。

- KOBAYASHI Norihiko “Spirits of the Dead and Curses/Disasters in Ancient Japan: The Background Leading to the Jōgan Goryōe” (小林宣彦「日本古代における死者の霊と祟り・災害に関する考察—貞観御霊会に至る背景を中心に—」『國學院雑誌』123巻12号、2022年12月、85-108頁の英訳)

- FUJISAWA Murasaki “Korin’s Images in Katsushika Hokusai’s Thirty-six Views of Mt. Fuji: Ukiyo-e and the Rinpa School” (藤澤紫「葛飾北斎画「富嶽三十六景」にみる「光琳」イメージ: 浮世絵と琳派」『國學院雑誌』123巻11号、2022年11月、1-23頁の英訳)

- OMICHI Haruka “Which Shrine Will Fulfil My Wishes? Selection Criteria in Shinto Spirituality” (大道晴香「願いを叶えるには「どこの神社に行くべきか」: 神道系スピリチュアリティにおける神社選びの基準について」『國學院雑誌』123巻12号、2022年12月、127-147頁の英訳)

内容詳細は、下記URLを参照されたい。

<https://www.kokugakuin.ac.jp/research/oard/ijcc/ijcc-publications/kjs-5-202402>



(3) 国際研究フォーラムの開催

日本文化研究所全体の催事として、国際研究フォーラム「見られることで何が変わるのか—ツーリズムと宗教文化」(To Be Seen: Changes Through Interaction Between Tourism and Religious Culture) を企画し、2023年12月17日に開催した(本誌トピック1参照)。

「見られることで何が変わるのか—ツーリズムと宗教文化」については、2024年度に報告書を刊行する予定である。

(4) 報告書『ミュージアムでみせる宗教文化』の刊行

2022年度に、日本文化研究所の主催催事として開催した、国際研究フォーラム「ミュージアムでみせる宗教文化」の報告書を刊行した(本誌トピック2参照)。

(5) 研究会の開催

2023年度は、主催の研究会として、日本文化研究所研究会を6回開催した(本誌トピック5参照)。

また、以下の6研究会を共催した。

- 第29回「仏教と近代」研究会: 井川裕覚『近代日本の仏教と福祉—公共性と社会倫理の視点から』書評会(2023年4月22日)。Cf. <http://blog.livedoor.jp/kindaibukkyo/archives/2023-04.html>

- East Asian Network For The Academic Study Of Esotericism: Pedagogy and Esotericism オカルト及び秘教(エソテリシズム)を大学生にどのように教えるか(Hybrid workshop)(2023年9月20日)。Cf. <https://eanase.com/2023/08/13/pedagogy->

and-esotericism-hybrid-workshop-20-september-2023/

- 東京大学先端科学技術研究センター創発戦略研究オープンラボ (ROLES): 講演会「神に何を奉るかーケルトと日本ー」(2024年1月23日)。Cf. <https://roles.rcast.u-tokyo.ac.jp/event/20240123>

- 宗教文化の授業研究会: 矢崎早枝子 (グラスゴー大学宗教学部専任講師、日本文化研究所共同研究員)「いま、イスラームをイギリスで教えるーグラスゴー大学の事例から」(2024年2月16日)。

- 宗教文化の授業研究会: 山中弘 (筑波大学名誉教授、日本文化研究所客員教授)「神道文化学部でキリスト教を教える」(2024年2月26日)。

- 第30回「仏教と近代」研究会: 宮沢賢治と近代仏教——研究の現状と課題 (2024年3月30日)。Cf. <http://blog.livedoor.jp/kindaibukkyo/archives/2023-04.html>

3. 2024年度の実施計画

2024年度は、もともと三カ年計画で企画した研究事業「宗教文化研究と学術情報発信の推進」の第一年度となる予定であった。しかし、冒頭で述べたように、研究開発推進機構全体として、2025年度以降は事業計画を原則単年度で企画することとなったため、当初計画の第二年度以降の展開については、成果と進捗状況に鑑みて、適宜内容を見直していく必要があることになる。いずれにせよ、以下に実施計画を記す。

本研究事業は、日本文化研究所のこれまでの事業を発展的に継承する形で、日本の宗教文化に関する研究と成果の発信を、主に二つの方向で展開させていく。一つは「宗教文化研究」であり、神道・国学に加えて、広く宗教文化についての研究を、これまでの研究成果の整理を含めて、推進していく。もう一つは「学術情報発信」であり、インターネット

上での国際的な情報発信を念頭に置いて、神道・国学に関する学術情報を、より公益に資する形で発信していく。

1 「宗教文化教育」

(1) 研究成果のアーカイブ化

旧日本文化研究所における諸活動や21世紀COEプログラムにおいて蓄積されてきた、神道・国学、日本の宗教文化に関する学術情報をアーカイブ化し、公開を進めて、今後の研究に活用できるようにする。旧日本文化研究所の刊行物について、実際に内容を精査して詳細な目録情報を作成する。これを元に過去の刊行物に対する遡及的な著作権処理をすすめ、リポジトリ登録作業につなげる。並行して、旧日本文化研究所の旧蔵雑誌、図書、諸資料の整理を進める。

(2) 宗教文化研究の推進

雑誌メディアから近代における宗教のあり方を検討する近年の諸研究に、神道・国学研究からの視座を付け加えることを目的として、本学所蔵の近代の神道・国学、日本宗教関係の雑誌についてリスト化、概要調査を行い、これらについて研究を行う。また、死生観・霊魂観の問題について、研究開発推進機構及び学内の関係機関との連携の可能性を探りつつ、研究を推進していく。これは多角的な視点から日本の死生観・霊魂観にみる複層的な思想と実践のあり方を考察し、社会への還元と国際的な発信を目指すものである。これらの研究成果について、より公益に資することを念頭に置いて、宗教文化教育の教材開発へと展開させ、また学会発表を行い、刊行物、ウェブページなどで成果を公開していく。

2 「学術情報発信」

(1) ウェブ上での学術情報の発信

本学諸機関と連携しながらデジタル・ミュージアムの運営に関わり、学術情報を国

際的に発信するため、特に Encyclopedia of Shinto など、デジタル・ミュージアム上で公開している英語の学術情報を拡充する。Shinto Portalサイトを運用して、神道についての信頼に足る英語の情報を集約して国内外の研究者と共有する。オンライン英文ジャーナルである Kokugakuin Japan Studies を刊行し、本学専任教員による研究成果を英訳のうえ掲載して国際的な成果発信を行う。加えて、ウェブサイト、SNSなど各種媒体を活用して、学術情報を発信していく。

- ・ 日本文化研究所Facebookページ
<https://www.facebook.com/oardijcc>
- ・ 日本文化研究所 X (旧Twitter)
<https://twitter.com/oardijcc>
- ・ 宗教研究関連催事情報
<https://twitter.com/IjccRsen>

(2) 国内外の研究者・研究機関との交流・連携

定期的に公開の研究会を開催して、学術情報を広く社会に発信しながら、国内外の研究者たちとの交流を深める。宗教文化研究に関連する学会や研究会などに、共催・後援などの形で加わり、学術面における情報共有・意見交換を推進する。英語圏における日本の宗教文化研究の動向を調査し、主要な研究者・機関について情報を集積してリスト化する。国際学会への参加、日本文化研究所が主催する国際研究フォーラムなどの催事への招聘、また海外からの研究者の短期・長期受入などを通して、国際的な研究交流を行う。

関連して、本事業はウェブサイトやSNSによる学術情報の発信を推進していくが、その際に用いるウェブサイトやSNSは、これまで日本文化研究所が継続的に運用してきたものである。下記にそれらを掲げる。

- ・ 國學院大學公式ウェブサイト
<https://www.kokugakuin.ac.jp/>
- ・ 日本文化研究所ウェブサイト
<https://www2.kokugakuin.ac.jp/oardijcc/>
- ・ Shinto Portal
<https://www2.kokugakuin.ac.jp/e-shinto/>